

本年度は「雪、月、風、花」をテーマにして、人生に寄り添う本たちをご紹介します。

今号のテーマは雪 **木々はもう、芽吹き準備を始めています。**

※書籍右横の番号はセンターでの検索番号です。



同性婚、あなたは賛成？反対？
—フランスのメディアから考える—

2014年 バド・ウイメンズ・オフィス
浅野 素女 (著)

[200-1]

2013年フランスで同性婚が認められた。この法案が提出されて以来、賛成派・反対派による大規模なデモが行われた。賛成派の同性カップルは、同性婚が認められたら、異性婚カップルと同様に「子どもを持つ」権利が認められることを期待している。反対派は「親になる」が多様化し、いのちの出発点像が変わることによる子どもへの影響を懸念している。

論点は、いのちをどうとらえていくのか。多様な性を認め、違いを理解し、「だれもが生きやすい社会をめざすこととは」を考える。(ぽっと)



男の電話相談
男が語る・男が聴く

2006年 かもがわ出版
『男』悩みのホットライン(編著)

[300-1]

1995年に開設された『男』悩みのホットライン」の10年の歩みや、相談員の思いをまとめた一冊。

悩みを相談しにくいと感じている男性が、生きる上で抱える悩みに対し、「男性が男性の悩みを聴く」という特徴が有効に作用している。性の悩みにも加害者としてのDVの悩みにも被害者性を含む立場にも寄り添う。日本で初めて開設されてから10年後の2005年当時も数少ない男性のための電話相談。現在はより多く開かれるようになった。※大阪府では第1・4水曜日、第2・3土曜日の16～20時に開催。(ぽっと)



ボーイズ
男子はなぜ「男らしく」育つのか

2019年 DU BOOKS
レイチェル・ギーザ (著)

[500-2]

本書執筆は、レズビアンで、妻と、養子に迎えた息子と共に暮らすジャーナリストの著者が、男性にとってより自由で広がりのあるマスキュリティ(男性性)は何かという問いの答えを求めて始まった。

タフ、強い、大黒柱、勇敢、等々の男らしさの牢獄「マンボックス」に閉じ込められた彼らを救い出すためにできることとは、男の子たちの話に耳を傾け「マンボックスの外に出ても大丈夫だよ、男らしくではなく自分らしくを大切に…」と励ますこと。子を持つ親はもちろん、教育者にもお勧め。(ルナ)



ミシェル・オバマ
アメリカを変革するファーストレディ

2009年 日本文芸社
ライザ・マンディ (著)
清川 幸美 (訳)
渡辺 将人 (監訳・解説)

[1100-2]

※本書には、一部破損、汚損があります。

アフリカ系アメリカ人のファーストレディ「ミシェル・オバマ」は、シカゴの貧困地域といわれる「サウスサイド」で生まれ、自らを「サウスサイドガール」という。彼女は黒人居住区で多様な価値観を持つ人々と交わりながら成長し、人種差別の壁を乗り越えて弁護士資格を取得。その後は生まれ育った貧しいコミュニティへの貢献へと進んでいく。そして、ホワイトハウスへ…。本書は新聞記者である著者が、丹念な取材を重ねて著した「愛と勇気あふれるひとりの女性の真実の記録」である。どうぞ、お手元に。(みっと)